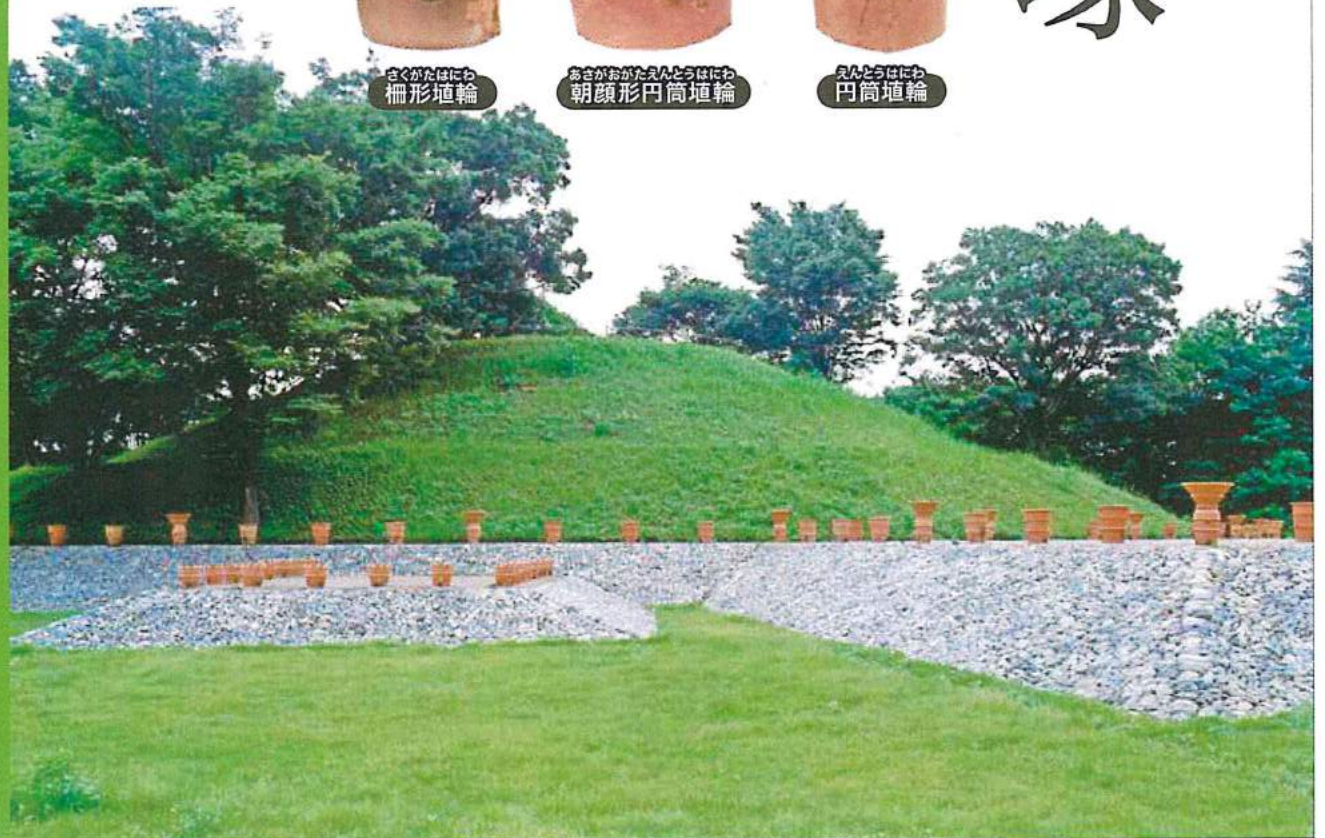


東京都指定史跡

# 野毛大塚 古墳



編集・発行：世田谷区教育委員会  
生涯学習部 生涯学習・地域学校連携課文化財係

〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27  
TEL：03 (5432) 2726

発行日 2019(平成31)年3月31日



# 野毛大塚古墳 | 東京都指定史跡、 出土品は国指定重要文化財(考古資料)

## 古墳の形

真上からみると、大きな後円部こうえんぶに小さな前方部ぜんぽうぶがつく、帆立貝形ほたてがひをしていて、周囲を馬蹄形ばていけいの周濠しゅうごうがめぐっています。また、前方部の脇には近接つきりだしぶして造出部つくりだしぶとよばれる小さな方形区画が設けられています。

## 古墳の規模

墳丘は全長82m、周濠を含めると104mで、帆立貝形の古墳としては全国でも最大級の規模です。各部の規模は後円部が直径68m、高さ11m、前方部が長さ15.5m、幅28m、造出部が長さ7.5m、幅10mです。

## 古墳の上を飾るもの

古墳の平坦面には3重に朝顔形円筒埴輪あさがおがたえんとうはにわと普通円筒埴輪ふつうえんとうはにわで構成される埴輪列がめぐらされ、造出部は柵形埴輪さくかたはにわのみで囲まれています。

その他の埴輪には鶏にわとり、水鳥つば、家、壺などがあります。

また、古墳の表面はすべて多摩川の自然石を使用した「葺石」ふきいしで覆われています。

## 古墳の年代

古墳の築造された年代は古墳時代中期初めで、実年代は今から約1,600年ほど前(西暦400年頃)と考えられています。

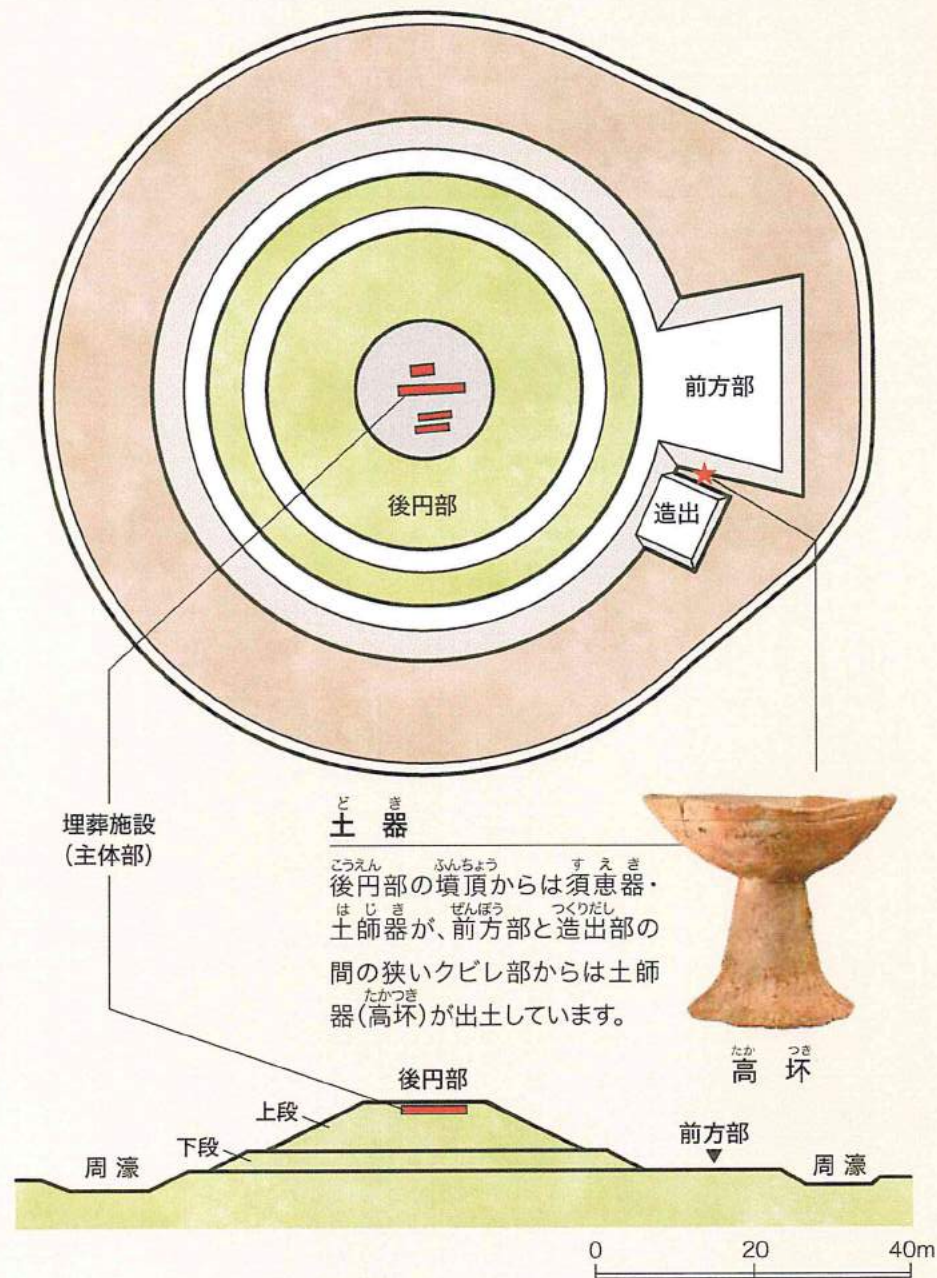
## 周辺の古墳・横穴墓

野毛大塚古墳の周辺には多くの古墳・横穴墓群おうけつぼくぐんが分布していますが、現在残っているものはその一部のみです。



野毛大塚古墳周辺図▲

# 野毛大塚古墳復元図



埋葬施設  
(主体部)

どき  
土器

こうえんぶの墳頂からは須恵器・はじき土師器が、ぜんぽうぶとつくりだしぶの間の狭いクビレ部からは土師器(高坏)が出土しています。



たか  
つぎ  
高坏

0 20 40m



## 出土品は国重要文化財に指定されています

出土品は、古墳時代中期の東日本を代表する資料で、畿内の中央政権と東国の関係を示す貴重なものとして、平成 28 年に国重要文化財に指定されています。

また、平成 29 年には、明治 30 年に石棺から出土した副葬品（東京国立博物館蔵）も追加指定されています。

### A 銅鏡

銅鏡は第1主体部から1面が出土しています。直径11.5cm、「長宜子孫」銘。

### C 玉類

第1～第4の各主体部からはさまざまな玉類が出土しています。



銅鏡(内行花文鏡)



鉄製甲冑(復元品)



丸玉(まるたま)

白玉(うすたま)

### B 甲冑

第1主体部から三角板革綴衝角付冑、しころいたあかべよるいかたよるい ちょうほうばんかわたしたんこう 鐵板、頸甲、肩甲と長方板革綴短甲からなる鉄製甲冑1セットが出土しています。

### D 鉄製武器

第1～第4の主体部からは、鉄剣10本、鉄刀33本、鉄槍14本、鉄鉾4本、鉄鏃243本など多数の鉄製武器類が出土しています。



集積された鉄製武器(第3主体部)

## 古墳の被葬者

出土した副葬品からみると、当時の政治の頂点であった畿内の大王と直接の政治的関係をもっていた人物で、南武蔵(現在の東京都・川崎市と横浜市北部)を支配した大首長であったと考えられています。

### E 漆製品

髪を飾る豎櫛が40個以上、第1主体部から出土しています。

### F 銅釧

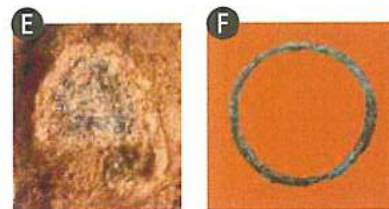
第1主体部の被葬者は、青銅製の釧(プレスレット)をつけています。

### G 鉄製模造品

鉄製模造品は祭祀専用として簡略化してつくった鉄製品で、すべて第3主体部からの出土です。

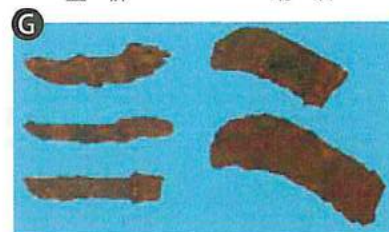
### H 石製模造品

石製模造品は実物の道具を滑石などの石で再現したもので、第4主体部を除く3つの主体部から約290点が出土しています。



豎櫛

銅釧



刀子形

鏃形

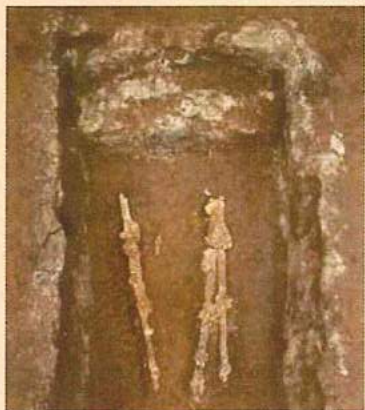




まいそう し せつ ふくそう ひん  
**埋葬施設と副葬品**

後円部の頂上には「主体部」とよばれる埋葬施設が4つ見つかっています。

これらは同時に造られたのではなく、第1⇒第3⇒第2⇒第4の順に、約50年ほどの間に4回の埋葬がおこなわれています。



てつとう まがたま とうす  
 ▲鉄刀・勾玉・刀子



とうけん てつそく  
 ▲刀剣と鉄鏃の束



かっせき  
 ▲滑石製品と鉄製品



どうきょう どうくしろ たまるい  
 ▲銅鏡・銅釧と玉類



かっちゅう  
 ▲甲冑の出土状況



かっせき とうけん てつそく  
 ▲滑石製品と刀剣・鉄鏃

中央の第1主体部は、古墳を築造した人物の棺で、粘土でくるまれた長さ8メートルの長大な「割竹形木棺」という形の棺に葬られています。ここには当時最新式の甲冑、刀剣、鏃など多量の鉄製武器や武具をはじめ、銅鏡、滑石製品や玉類などが副葬品として納められています。

続く第3主体部は長さ約4.2メートルの「箱形木棺」で、第1主体部を上回る鉄製武器・武具と滑石製品が納められています。

第2主体部は他とはちがひ、長さ2.7メートルの「箱形石棺」で、明治30(1897)年に発掘され、鉄製武器・武具や滑石製品が出土しています。

最後の第4主体部は長さ3.2メートルの「箱形木棺」で、他の主体部に比べて少ない副葬品が納められています。